

平成29(2017)年度

学生募集要項

【 一 般 選 拔 】

公立大学法人 前橋工科大学



Maebashi Institute of Technology

目 次

入学者受入方針（アドミッションポリシー）	1
学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針	5
入学者選抜における変更点について	10
I 試験概要	
1. 募集人員	11
2. 出願資格	11
3. 選抜方法	12
4. 学力試験等の配点	13
5. 個別学力試験の期日・時間割	14
II 出願、試験	
1. 出願期間	15
2. 出願方法	15
3. 出願先	15
4. 入学検定料	15
5. 出願手続上の注意事項	15
6. 出願書類	17
7. 障がい等を有する等の入学志願者との事前相談	18
8. 試験会場	18
9. 受験上の注意事項	19
III 合格発表	
1. 発表期日	20
2. 発表方法	20
3. 追加合格等	20
4. 情報開示	20
IV 入学手続	
1. 入学手続	21
2. 入学に係る経費	22
V 個人情報取り扱い	23
会場案内図	24
願書の記入方法	28

■ 添付書類 （以下の書類が同封してあることを確認してください。各書類とも前期日程用、後期日程用があります。）

A 票 願書 B 票 受験票 C 票 写真票 D 票 住所票
 E 票 入学検定料振込依頼書 F 票 入学検定料納付証明書
 受験票返送用封筒 出願書類提出用封筒

・一般注意事項

天候等の理由で試験の実施に変更等がある場合は、本学ホームページに掲載しますので、必ず確認してください。

前橋工科大学工学部 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

工学の各分野に対する高い関心と基礎的な学力を持ち、将来国内外の社会において活躍したいと考える向上心のある学生を受け入れる。

本学の各学科では、次のような学生を広く求めます。

各学科の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

[社会環境工学科]

① 教育理念

社会環境工学科では、社会資本の整備や自然環境の保全に取り組む土木・環境工学（Civil and Environmental Engineering）分野の技術者の養成を目指しています。

② 求める学生像

次のような学生を求めています。

- ・道路、河川、港湾、鉄道、都市施設の整備・維持管理方法、地震や大雨による自然災害から市民生活を守るための対策、種々の環境問題に関心を持っている
- ・広くものづくりに関心が高く、自然現象や社会現象の調査分析・実験などを通じて自然科学や社会科学の原理原則を探究したい

③ 評価の観点

公共の福祉についておもんばかる想像力、専門分野の技術者として備えるべき基礎学力、自らの問題意識を社会とのかかわりの中で活かすことを目的とした提案力を涵養するための基盤となる数学・英語・理科・国語等、特に数学・物理の基礎的学力を評価します。

高等学校等での修得すべき科目は、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む）及び英語で、入学時までこれらの科目の内容を理解していることが望まれます。

[建築学科]

① 教育理念

建築学科では、社会福祉や自然環境への配慮に加え、安全、健康、安らぎ、豊かさ等、文化的・芸術的な視点から建築と都市のデザインやマネジメントを推進する設計者と技術者の養成を目指しています。

② 求める学生像

次のような学生を求めています。

- ・科学、社会、技術、芸術等の広い分野に関心を持っている
- ・建築や都市の企画・設計・施工・監理・マネジメント等に関わる業務に従事したい

③ 評価の観点

広い視野と発想力、洞察力、問題発見能力、集中力、持続力、コミュニケーション力等の基盤となる数学・英語・理科・国語等、特に数学の基礎的学力を評価します。

高等学校等での修得すべき科目は、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む）及び英語で、入学時までこれらの科目の内容を理解していることが望まれます。

[生命情報学科]

① 教育理念

生命情報学科では、生命現象を情報科学により分析・解明して人の健康・福祉に貢献し、情報科学を発展させて行くことのできる研究者と技術者の養成を目指しています。

② 求める学生像

次のような学生を求めています。

- ・プログラミング、システム、ネットワーク、物理、化学、生物等の広い分野に関心を持っている
- ・将来生命科学（製薬、医療機器等）及び、情報科学（データベース開発、情報システム開発等）に関わる業務に従事したい

③ 評価の観点

広い視野と理解力、問題発見能力、分析力、解決力の基盤となる数学・理科等の基礎的学力を評価します。

高等学校等での修得すべき科目は、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む）、化学（化学基礎を含む）、生物（生物基礎を含む）（あるいは同等の科目）のうち1つ以上及び英語で、入学時までこれらの科目の内容を理解していることが望まれます。

[システム生体工学科]

① 教育理念

システム生体工学科では、工学と医科学との融合分野における健康長寿の社会的ニーズの実現に向けて、生体に関する医科学の基礎と電気電子・機械・情報・計測制御等の工学基盤技術を学び、福祉や医療の分野で貢献できる技術者の養成を目指しています。

② 求める学生像

次のような学生を求めています。

- ・工学と医科学の学際領域で活躍できる技術者を目指している
- ・生体工学・メカトロニクスなどの学問に興味があり、人々の健康・福祉に貢献したい
- ・福祉や医療の機器・システムに関心を持ち、その設計開発を行いたい
- ・自ら考え、学ぶ力を高め、社会的要請に果敢に挑戦する意欲がある

③ 評価の観点

工学を学ぶのに必要となる数学・理科・英語・国語等の基礎的学力を評価します。

高等学校等での修得すべき科目は、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む）、化学（化学基礎を含む）、生物（生物基礎を含む）（あるいは同等の科目）のうち1つ以上及び英語で、入学時までこれらの科目の内容を理解していることが望まれます。

【生物工学科】

① 教育理念

生物工学科では、生物の多様な能力を食品の生産や医薬品をはじめとする有用化合物の製造、地球環境・地域環境の保全と浄化に役立てる知識を持った技術者の養成を目指しています。

② 求める学生像

次のような学生を求めています。

- ・動植物や微生物の示す様々な形態や生理現象の発現の仕組みに関わる化合物やタンパク質、遺伝子等について学びたい
- ・食品が生体内で示す様々な作用の仕組みについて学び、健康の維持と増進等で、社会に役立てたい
- ・地球環境の保全や汚染された環境の浄化・修復に生物の能力を利用するための知識や技術の修得に意欲がある
- ・学んだことを生かして社会に貢献する意欲を持ち、積極的に勉学に取り組むことができる

③ 評価の観点

自然科学、工学の知識を収集・理解し、情報や自分の考えを伝えるための基盤となる国語・数学・理科・英語等の高等学校等で学ぶ基礎的学力を評価します。

高等学校等での修得すべき科目は、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理基礎、化学（化学基礎を含む）、生物（生物基礎を含む）（あるいは同等の科目）、国語（古典を除く）及び英語で、入学時までこれらの科目の内容を理解していることが望まれます。

教職課程

生物工学科において、高等学校教諭一種免許状(理科)を取得することができます。

教職課程では、教育に対する深い理解と教職に対する強い情熱を持ち、教育の専門家として確かな力量を備え、総合的な人間力を持って生徒に援助ができる実践的指導力を兼ね備えた教員の養成を目指しています。

そのために、次のような学生を求めています。

- ・人と人とのかわりを大切にでき、教育に関心がある
- ・自然科学を総合的にとらえ、広く理解している
- ・グループワークにおいて目標を定め、協力しながらその目標を達成できる

[総合デザイン工学科]

① 教育理念

総合デザイン工学科では、主に働きながら学ぶ意欲のある人を対象として、人々の暮らしを豊かにするためのデザインに求められる基本的な考え方と表現を修得していると共に、そのデザインを実現するための構造・材料・設備の知識や情報技術についても修得している専門技術者の養成を目指しています。

② 求める学生像

次のような学生を求めています。

- ・地域社会に貢献したい
- ・デザイナー、建築家としての確かな基礎知識や技術を身につけたい
- ・構造家、設備系技術者、情報技術者として活躍したい
- ・基礎的な倫理観や教養、専門的な知識に基づく、独創的な発想力と問題解決能力を身につけたい
- ・既に社会人であり、工学的専門知識を学び、将来的に仕事に活かしたい

③ 評価の観点

専門的知識を学ぶのに必要となる数学・理科の基礎的学力、専門的な技術を身につけるのに必要とされる想像力・理解力・描写力・表現力、独創的な発想力と問題解決能力についての資質を評価します。

高等学校等での修得すべき科目は、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理基礎（できれば物理も）及び英語で、入学時までこれらの科目の内容を理解していることが望まれます。

総合デザイン工学科は、主として夜間および土曜日に授業を開講しています。

前橋工科大学工学部各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は次のとおりです。

〔社会環境工学科〕

【ディプロマ・ポリシー】

社会環境工学科では、所定の年限在学し、学科の教育理念・目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、以下に示す能力を有すると認められたものに学士（工学）の学位を授与します。

- ・ 人類の持続可能な発展、技術と自然や社会との係わり合いを考えながら、自立した技術者として責任ある判断のもとに行動することができる。（JABEE 想像力に対応。）
- ・ 社会基盤工学と環境工学に関する基礎を学び、この分野の技術者として備えるべき知識を身につけている。（JABEE 基礎学力に対応。）
- ・ 自ら問題意識をもって課題に取り組み、その結果を社会との関わりの中で活かすことができる。（JABEE 提案力に対応。）

【カリキュラム・ポリシー】

社会環境工学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、共通教育科目、専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）に分けて、以下のカリキュラムを開設し、年次に従って実施します。

- ・ 1・2年次は共通教育科目（人文・社会科学科目、外国語科目、自然科学科目）中心の教育となるが、カリキュラムには専門の基礎となる科目も配置している。
- ・ 2年次には、小グループに分かれて、全教員が直接指導するプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱを通し、社会基盤や地域環境に対する問題意識の向上を図る。
- ・ 3・4年次は、実験を含めた専門科目を中心とした学習となる。
- ・ 3年次に行われるインターンシップや現場見学会では、学習内容と社会との関わりを実感できるようにしている。
- ・ 必ずしも解が1つに定まらない問題を扱うプロジェクト演習Ⅲ、自分の主張を明確に表現する力を養うプロジェクト演習Ⅳ、4年間の学習の総まとめとしての卒業研究があり、卒業研究の成果を学会で発表する機会も与えられる。

〔建築学科〕

【ディプロマ・ポリシー】

建築学科では、所定の年限在学し、学科の教育理念・目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、以下に示す能力を有すると認められたものに学士（工学）の学位を授与します。

- ・ 自ら発見した問題を、自ら調べ、自ら考えて解決する能力を身に付けている。
- ・ 学んだ技術や知識をもとに、柔軟に対応できる応用力を身に付けている。

- ・建築設計者・技術者として必要な基礎知識を持ち、記述能力、描画能力、ものを作る能力を通して、自分の考えを表現することができる。
- ・建築設計者・技術者として備えるべき倫理観を持ち、社会的責任を理解している。
- ・建築に関わる生活の豊かさ、人間の健康、地域社会、環境について考えた空間を創造することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

建築学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、共通教育科目、専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）に分けて、以下のカリキュラムを開設し、年次に従って実施します。

- ・1年次においては、教養科目で構成されている共通教育科目とともに、建築学の基本となる設計、計画、構造の基礎に関する専門基礎科目を学ぶ。
- ・2年次においては、1年次の専門基礎科目に加えて、建築学の基礎をより発展させた専門基礎科目のほか、建築設計、構造力学、建築計画、環境工学に関する専門科目について学び、建築設計者・技術者として必要な基礎知識を身につける。また、実習・演習科目を通して、自己表現力を身につける。
- ・3年次においては、専門科目を中心に学び、建築計画・意匠分野、建築構造・材料分野、建築環境・設備分野に分けて、学生が自主的に履修計画を立て、希望する専門分野の科目を履修する。また、実験科目を通して、問題提起・解決能力を身につけるほか、建築インターンシップでは、学外の企業で実務を体験することにより、倫理観や社会的責任を理解する。
- ・4年次においては、専任教員の研究室に所属し、卒業研究・設計に取り組むことで、技術論文のまとめ方、プレゼンテーション方法、討議の仕方などについて学び、大学教育の総まとめを行う。

【生命情報学科】

【ディプロマ・ポリシー】

生命情報学科では、所定の年限在学し、学科の教育理念・目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、以下に示す能力を有すると認められたものに学士（工学）の学位を授与します。

- ・コンピュータ、データベースおよびネットワークシステムの仕組みと働きに関する基礎的な知識を有し、それらを活用することができる。
- ・分子生物学、ゲノム科学に関する基本的な知識を持ち、医療、製薬、農業などのバイオテクノロジーに関する最新の技術情報を理解することができる。
- ・基本的なプログラミングを行う能力があり、与えられた問題を解決するために必要なプログラムを作成できる。
- ・社会的に高い倫理規範を持ち、自らの知識を社会貢献に役立てようとする強い意思を持つ。
- ・文書、および口頭でのプレゼンテーションにより、アイデアを共有することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

生命情報学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、共通教育科目、専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）に分けて、以下のカリキュラムを開設し、年次に従って実施します。

- ・ 1年次においては、共通教育科目を中心とし、生命情報に関する専門基礎科目も学ぶ。生命情報学科でもっとも重視しているプログラミングの演習は1年次から開始する。
- ・ 2年次においては、1年次で学んだ専門基礎科目を発展させた科目と、情報ネットワーク分野とゲノム情報分野に共通する専門基礎科目を学ぶ。
- ・ 3年次では、情報ネットワーク分野とゲノム情報分野に関する専門科目を学び、ゼミナールでは専任教員の研究室に所属して、卒業研究で扱う専門分野の基礎を勉強し、その分野の理解を深める。
- ・ 4年次の卒業研究では専任教員の研究室に所属し、与えられた研究テーマについて調査・実験・研究を進めながら、技術論文のまとめ方、プレゼンテーション技術、討議の仕方などを学ぶ。

[システム生体工学科]

【ディプロマ・ポリシー】

システム生体工学科では、所定の年限在学し、学科の教育理念・目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、次の条件を満たすと認められたものに学士（工学）の学位を授与します。

- ・ 生体工学、メカトロニクス、情報科学を含むシステム生体工学に関する横断的な知識を有する。
- ・ システム生体工学に関する問題の発見、分析、解決を主体的に取り組むことができる。
- ・ 健康・医療・福祉機器やシステムの設計・開発をはじめとする広い分野に応用できる基礎的な技術力を有する。
- ・ 技術者として、地域社会への貢献や技術を運用する責任と倫理について考えることができる。
- ・ 論理的思考能力、プレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力を有する。

【カリキュラム・ポリシー】

システム生体工学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、共通教育科目、専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）に分けて、以下のカリキュラムを開設し、年次に従って実施します。

- ・ 基礎教育から専門教育へスムーズに移行できるように、低学年において、数学、物理、生物、語学など幅広い分野の知識を習得させ、工学基礎力を涵養する。
- ・ システム生体工学に関連する学問を体系的に学ぶことができるように、共通の専門科目を設けるとともに、システム脳神経工学分野、生体情報計測分野、生体機能制御分野の3つの専門分野を横断する科目を開設する。
- ・ 専門教育では、専門科目の講義とともにプロジェクト型教育を行い、基本的な原理に対する理解を深め、課題探究能力や問題解決能力などの基礎力を養成する。

- ・専門のゼミナールと卒業研究では、それぞれの分野の専門知識をさらに深め、社会に貢献できる研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造力を養い、論理的思考能力やプレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力を養成する。

【生物工学科】

【ディプロマ・ポリシー】

生物工学科では、所定の年限在学し、学科の教育理念・目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、次の能力を有すると認められたものに学士（工学）の学位を授与します。

- ・生物に備わる機能と情報の仕組みを理解する能力を有する。
- ・様々な事象から問題点を見出し、その解決方法を論理的に考えることができる。
- ・バイオ、化学、食品等の関連産業における専門知識と実践技術を有する。
- ・技術者としての倫理に則り行動することができる。
- ・データや情報を集約して分析し、わかりやすく発表、説明することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

生物工学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、共通教育科目、専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）に分けて、以下のカリキュラムを開設し、年次に従って実施します。

- ・1、2年次においては、教養科目から成る共通教育科目を履修するとともに、生物工学の基礎知識を習得するための必修科目である専門基礎科目を履修する。
- ・3、4年次においては、生物工学を応用した医薬品、食品、化学、環境産業などの研究開発の基礎となる専門科目を履修する。
- ・生物工学研究では、様々な事象を論理的に説明するための仮説を設定し、実証実験を繰り返しながら仮説の真偽を検証することが重要である。この観点から、講義による基礎知識の習得とともに、1年次は基礎生物学実験Ⅰおよび基礎生物学実験Ⅱを、2～3年次は生物学実験Ⅰ～Ⅳを全員が履修して、仮説の証明のための基礎となる実験技術の基本を幅広く習得する。
- ・卒業研究は、専任教員の研究室に所属し、具体的な研究活動の体験を通じて、高度の実験技術を習得する。また、テーマの設定や文献調査、学術論文の作成法、プレゼンテーション方法、討議の仕方などの基礎を学ぶ。

【総合デザイン工学科】

【ディプロマ・ポリシー】

総合デザイン工学科では、所定の年限在学し、学科の教育理念・目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、次の能力を有すると認められたものに学士（工学）の学位を授与します。

- ・既存の価値、社会の状況を多面的な視点から観察し、問題を発見する能力を身につけている。

- ・基礎教育科目とともに、数理・情報、材料、構造などの専門科目を学修することで、問題解決のための知識と実践の方法を修得している。
- ・専門的工学知識をもとに、発想を具現化する技術を持ち、造形と視覚を意識したものづくりを行うことができる。
- ・自らの考えや成果物を他者に伝達するとともに、他者の考えを理解するコミュニケーション能力を身につけている。
- ・考えや成果物に対しての客観的な評価を通して、デザインの学修を継続的に行う能力を身につけている。

【カリキュラム・ポリシー】

総合デザイン工学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、基礎教育科目、専門教育科目に分けて、以下のカリキュラムを開設し、年次に従って実施します。

- ・1・2年次の自然科学系科目、人文・社会科学系科目および外国語科目では、既存の価値や社会の状況を多面的な視点から観察し問題を発見する能力を身につけるための学修をする。
- ・1年次の専門教育科目として、問題解決のための知識と実践の基礎的能力を修得するために、デザインに従事する人材が共通して必要とする、数理・情報、材料・構造、技術製図を学修する。
- ・2年次の専門教育科目では、授業科目を段階的に配置し、学生各自の関心に沿った科目を学修することで学んだ知識や技術を深化させることで、専門的工学知識をもとに、機能、造形と視覚を意識した発想力豊かなものづくりのできる能力を養う。
- ・3年次では、デザインについて学ぶ学生に対しては、プロダクトデザイン、建築・都市デザイン、情報デザインを知ること、そこに共通するデザインの基礎を学ぶとともに、創造のための思考力を養い、材料・構造について学ぶ学生に対しては、建築構造家、設備技術者、施工技術者として必要な知識や技術を修得させる。
- ・4年次では、卒業研究を通じて、問題発見から解決とその具現化を実践的に学修する過程の中で、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、デザインの学修を継続的に行う能力を養う。

教職センター

【ディプロマ・ポリシー】

教職課程では、所定の年限在学し、本課程の教育理念・目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、かつ、教員免許取得に必要な授業科目を履修・修得し、次の能力を有すると認められたものは高等学校教諭一種免許状(理科)を取得することができます。

- ・教員として働くことの意義を理解し、教職への熱意をもっている。
- ・教科教育に対する専門的知見と技術を有している。
- ・社会人としての確かな見識と現場での実践力を備え、生徒への支援ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

教職課程では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、教職に関する科目、教科専門に関する科目、免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目に分けて、以下のカリキュラムを開設し、年次に従って実施します。

- ・教職に関する科目においては、1 年次に教職の意義等に関する科目、教育の基礎理論に関する科目、教職課程及び指導法に関する科目を履修させ教員として働く意義と担任としての心構えを学ばせる。
- ・2 年次では教育の基礎理論に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目を学修させることで、理科を専門とする教員としての知見とその教授方法を身につけさせる。また、生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目では、生徒への接しかたや指導、教育相談についての方法を学ばせる
- ・3 年次においては 2 年次に引き続き教育課程及び指導法に関する科目、生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目を履修させる。さらに教育実習、教育実習事前事後指導を学修させて教員としての総合的な実践力を身につけさせる。また、その資質能力や進路に関する自己分析もさせる。
- ・4 年次は教職実践演習(高)において教職としての資質能力全体について振り返り、補充、深化をさせる。
- ・教科に関する科目では 1、2 年次において物理、化学、生物、地学に関する総合的内容を学ばせ、自然科学の各分野を概観させる。また、基本的実験を通して講義で学んだ知見等を深く理解させ、実験技能を修得させる。
- ・3、4 年次では生物学、化学についての専門的科目を履修させ自然科学における生命科学、環境科学の分野の知見を深めさせる。また、科学的に探究する能力と課題解決能力を習得させる。
- ・免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目では、1－3 年次に日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作の修得をさせる。

平成 29（2017）年度 入学者選抜における変更点について

□ 一般選抜【後期日程】における生命情報学科の選抜方法の内容及び配点変更

⇒ 選抜方法の内容を変更します。

面接での、「基礎的な数学の口頭試問を含む」がなくなりました。

⇒ 大学入試センター試験の配点を変更します。（変更点下線）

学力試験等の配点 後期日程

学科名	学力試験名	国語※1	数学※2	理科※3	外国語※4	小論文	面接	合計
生命情報学科	大学入試センター試験	100	<u>300</u>	100	100	－	－	<u>600</u>
	個別試験	－	－	－	－	－	100	100
	計	100	<u>300</u>	100	100	－	100	<u>700</u>

※1 「近代以降の文章」のみ ※2 数学は、数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学Ⅳ ※3 物理、化学、生物から 1 科目 ※4 外国語は英語・リスニング

I 試験概要

1. 募集人員

入試区分 学部・学科		一 般 選 抜	
		前期日程	後期日程
工 学 部	社会環境工学科	32名	10名
	建築学科	33名	10名
	生命情報学科	25名	14名
	システム生体工学科	29名	10名
	生物工学科	29名	10名
	総合デザイン工学科	12名	7名
合 計		160名	61名

- ◎ 一般選抜の「前期日程」及び「後期日程」は、分離・分割方式の区分によります。
- ◎ 特別選抜【推薦、帰国生徒、私費外国人留学生、総合デザイン工学科 社会人・A日程(推薦)、B日程】の募集要項は、別冊子となっていますので別途請求してください。

2. 出願資格

平成29年度大学入試センター試験のうち、本学が指定する教科・科目を受験した者で、以下の各号のいずれかに該当する者

- (1) 高等学校（中等教育学校を含む。以下同じ）を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の認めた者
- (5) 高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (6) 本学において、出願資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年3月31日までに18歳に達する者
（出願資格審査において、出願資格を認定された者は、本学のみ有効なものです。）
本学に入学を希望し、大学入試センター試験に出願しようとする者の申請期間は終了しました。

3. 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験及び個別学力試験等の成績ならびに調査書の内容を総合して行います。

(1) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目

区分	学部・学科名	教科	科目	教科・科目数
前期日程・後期日程(共通)	工学部	社会環境工学科	国語 数学Ⅰ・数学A 理科 外国語	4教科 5科目
		生命情報工学科 システム生体工学科	国語 数学Ⅰ・数学A 理科 外国語	4教科 5科目
		生物工学科	国語 数学Ⅰ・数学A 理科 外国語	4教科 6科目
		総合デザイン工学科	数学 以下①から⑧のうち2科目を選択 国語 ①「国語」 数学Ⅱ ②「数学Ⅱ・数学B」 理科 ③「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、 外国語 ④「物理」 ⑤「化学」 ⑥「生物」 ⑦「地学」 ⑧「英語・リスニング」	2教科 3科目 又は 3教科 3科目
前期日程	工学部	建築学科	国語 数学Ⅰ・数学A 理科 外国語	4教科 5科目
後期日程		建築学科	数学Ⅰ・数学A 理科 外国語	3教科 4科目

- 1 「国語」は、「近代以降の文章」のみ利用します。
- 2 指定された教科・科目を受験していない場合は、「失格」とします。
- 3 理科から1科目の選択について、2科目受験している場合は、高得点の科目を採用します。
- 4 総合デザイン工学科の「2科目を選択」については、各科目を100点換算し、8科目のうち高得点のものから2科目を大学側で選択し、採用します。

(2) 個別学力試験の実施教科・科目等

区分	学部・学科名		教科	科目
前期日程	工学部	社会環境工学科 建築学科 生命情報学科 システム生体工学科	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」
		生物工学科	理科	「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」から1科目を選択
		総合デザイン工学科	その他	実技
後期日程	工学部	社会環境工学科	その他	面接（物理に関する口頭試問を含む。）
		建築学科	その他	小論文
		生命情報学科	その他	面接
		システム生体工学科	その他	面接
		生物工学科	その他	小論文
		総合デザイン工学科	その他	面接

4. 学力試験等の配点

(1) 前期日程

学科名	学力試験名	国 語	数 学	理 科	外国語	実 技	合 計
社会環境工学科 建 築 学 科	大学入試センター試験	1 0 0	2 0 0	1 0 0	2 0 0	—	6 0 0
	個 別 学 力 検 査	—	2 0 0	—	—	—	2 0 0
	計	1 0 0	4 0 0	1 0 0	2 0 0	—	8 0 0
生 命 情 報 学 科	大学入試センター試験	1 0 0	2 0 0	1 0 0	1 0 0	—	5 0 0
	個 別 学 力 検 査	—	2 0 0	—	—	—	2 0 0
	計	1 0 0	4 0 0	1 0 0	1 0 0	—	7 0 0
シ ス テ ム 生 体 工 学 科	大学入試センター試験	1 0 0	2 0 0	1 0 0	2 0 0	—	6 0 0
	個 別 学 力 検 査	—	2 0 0	—	—	—	2 0 0
	計	1 0 0	4 0 0	1 0 0	2 0 0	—	8 0 0
生 物 工 学 科	大学入試センター試験	1 0 0	2 0 0	2 0 0	2 0 0	—	7 0 0
	個 別 学 力 検 査	—	—	2 0 0	—	—	2 0 0
	計	1 0 0	2 0 0	4 0 0	2 0 0	—	9 0 0
総 合 デ ザ イ ン 工 学 科	大学入試センター試験	—	1 0 0	—	—	—	3 0 0
		2 0 0（選択教科・科目）					
	個 別 学 力 検 査	—	—	—	—	1 0 0	1 0 0
	計	—	1 0 0	—	—	1 0 0	4 0 0
		2 0 0（選択教科・科目）					

(2) 後期日程

学科名	学力試験名	国 語	数 学	理 科	外国語	小論文	面 接	合 計
社会環境工学科	大学入試センター試験	1 0 0	3 0 0	2 0 0	1 0 0	—	—	7 0 0
	個 別 学 力 検 査	—	—	—	—	—	1 0 0	1 0 0
	計	1 0 0	3 0 0	2 0 0	1 0 0	—	1 0 0	8 0 0
建 築 学 科	大学入試センター試験	—	2 0 0	1 0 0	1 0 0	—	—	4 0 0
	個 別 学 力 検 査	—	—	—	—	1 0 0	—	1 0 0
	計	—	2 0 0	1 0 0	1 0 0	1 0 0	—	5 0 0
生命情報学科	大学入試センター試験	1 0 0	3 0 0	1 0 0	1 0 0	—	—	6 0 0
	個 別 学 力 検 査	—	—	—	—	—	1 0 0	1 0 0
	計	1 0 0	3 0 0	1 0 0	1 0 0	—	1 0 0	7 0 0
システム生体 工 学 科	大学入試センター試験	1 0 0	2 0 0	1 0 0	2 0 0	—	—	6 0 0
	個 別 学 力 検 査	—	—	—	—	—	1 0 0	1 0 0
	計	1 0 0	2 0 0	1 0 0	2 0 0	—	1 0 0	7 0 0
生 物 工 学 科	大学入試センター試験	1 0 0	2 0 0	2 0 0	2 0 0	—	—	7 0 0
	個 別 学 力 検 査	—	—	—	—	2 0 0	—	2 0 0
	計	1 0 0	2 0 0	2 0 0	2 0 0	2 0 0	—	9 0 0
総合デザイン 工 学 科	大学入試センター試験	—	1 0 0	—	—	—	—	3 0 0
		2 0 0（選択教科・科目）						
	個 別 学 力 検 査	—	—	—	—	—	1 0 0	1 0 0
	計	—	1 0 0	—	—	—	1 0 0	4 0 0
		2 0 0（選択教科・科目）						

※ 前期日程、後期日程ともに、外国語「英語」の配点には、リスニングの成績を含みます。

5. 個別学力試験の期日・時間割

- ・各会場の試験室入室開始時間は、9時00分を予定しています。
- ・受験生は、9時30分までに試験室に入室してください。
- ・前橋会場のみ入室開始までの控室があります。

(1) 前期日程選抜期日 平成29年2月25日(土)

学科名 \ 時間	10:00~12:00 (120分)
社会環境工学科 建築学科 生命情報学科 システム生体工学科	数 学
生物工学科	理 科
総合デザイン工学科	実 技

(2) 後期日程選抜期日 平成29年3月12日(日)

学科名 \ 時 間	10:00～
社会環境工学科 生命情報学科 システム生体工学科 総合デザイン工学科	面接

※ 受験者数により面接試験を受けるまでの待機時間が長くなる場合があります。

学科名 \ 時 間	10:00～12:00 (120分)
建築学科 生物工学科	小論文

Ⅱ 出願、試験

1. 出願期間

前期日程・後期日程

平成29年1月23日(月)から2月1日(水)まで

2. 出願方法

本募集要項添付の出願書類提出用封筒を使用し、**書留(簡易書留も可)速達扱いの郵送**に限りま。なお、**出願書類受付の締め切りは、出願期間最終日の17時00分必着**ですので、郵送期間を十分考慮のうえ発送してください。

※ 両日程に出願する場合は、日程別の封筒を使用し、別々に出願してください。

3. 出願先(封筒記載済)

〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町460番地1

前橋工科大学 学務課学生係 [1号館1階事務局内]

TEL 027-265-7361

※受験票は出願手続き完了後、返送用封筒にて返送します。

4. 入学検定料

17,000円

※ 両日程に出願する場合は、日程別に入学検定料を納入してください。

5. 出願手続上の注意事項

- ① 出願に際し、本学が指定する「大学入試センター試験の受験を要する教科・科目」(12ページ参照)を受験しているかを必ず確認してください。本要項で指定した大学入試センター試験の受験を要する教科・科目を受験していない場合は、出願資格がありませんので十分確認を行ってください。

- ② 前期日程、後期日程の両日程に出願することができます。
- ③ 本学の前期日程と他の国公立大学・学部（ただし、独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ）の前期日程との併願及び本学の後期日程と他の国公立大学の後期日程との併願はできません。
- ④ 本学の推薦入試又は他の国公立大学・学部（ただし、独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ）の推薦入試若しくはアドミッション・オフィス入試に合格し、入学手続きを行った者は、本学の個別学力試験に出願していても受験することができません。たとえ受験しても無効となります。ただし、推薦入試若しくはアドミッション・オフィス入試の辞退について、当該大学の許可を得た場合はこの限りではありません。
- ⑤ 本冊子添付の各書類は、それぞれ前期日程用、後期日程用の２種類がありますので、書類作成の際に間違わないよう注意してください。
- ⑥ 出願書類に記入漏れやその他不備のある場合は、受理しないことがありますので、出願の際には十分確認してください。また、**出願期間を過ぎて到着したものは受け付けできません**ので、郵送の場合には所要日数を十分に考慮して発送してください。
- ⑦ 前期・後期の両日程に出願する場合は、必ず日程別に出願書類を本学所定の封筒に入れて発送してください。
- ⑧ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載と相違する事実が発見された場合は、入学を取り消すことがあります。
- ⑨ 出願受け付け後は出願事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所、電話番号等に変更が生じた場合は、変更を証明する書類を提出していただく必要がありますので、本学学務課学生係まで連絡してください。
- ⑩ 個別学力検査期日の１０日前までに受験票が届かない場合は、本学学務課学生係までお問い合わせください。
- ⑪ **一度受け付けをした出願書類及び納入された入学検定料は、どのような理由があっても返還しません。**
- ⑫ 出願書類を受理した後に受験票を返送します。
- ⑬ 募集要項の内容に修正等がある場合は、大学ホームページに掲載しますので出願書類作成前と送付前に確認してください。
- ⑭ 試験会場は受験票で指定していますので、指定された会場で受験してください。指定された試験会場以外では、いかなる理由があっても受験できません。試験会場受け入れ定員を超えた場合、試験会場が変更となる場合があります。これに伴う受験の取りやめについては入学検定料の返還は行いません。
- ⑮ 国公立大学の前期日程試験に合格し、平成２９年３月１５日（水）までに入学手続きを行った者は、他の国公立大学（ただし、独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ）の中期日程又は後期日程試験を受験してもその合格者となりません。
- ⑯ 本学の入学手続きを完了した者は、これを取り消して他の国公立大学への入学手続きを行うことはできません。また、他の国公立大学の入学手続きを完了した者は、本学への入学手続きを行うことはできません。追加合格者についても同様です。
- ⑰ 大学入試センター試験受験票・写真票・成績請求票の再発行を受けた場合は、当初発行の受験票・写真票・成績請求票は無効となりますので使用しないでください。必ず、再発行されたものを使用してください。なお、成績請求票について、該当しないものやコピーしたものを使用した場合には、受理できませんので注意してください。

6. 出願書類

出願に必要な書類		作成要領
A票	願 書 (前期) (後期)	28～29ページの記入方法を参照の上、必要事項をもれなく記入してください。電算処理しますので、記入上の注意に従い記入してください。
B票	受 験 票 (前期) (後期)	必要事項をもれなく記入してください。 縦4cm×横3cmの写真（正面上半身、脱帽、背景無し、出願前3か月以内に撮影したもの）の裏面に志望学科及び氏名を記入し、写真貼付欄にはがれないよう全面のり付けしてください。
C票	写 真 票 (前期) (後期)	〔注〕前期日程の写真票（C票）には、大学入試センターから交付された平成29年度センター試験成績請求票のうち「前期日程用」を、後期日程の写真票（C票）には同じく成績請求票のうち「後期日程用」を貼付してください。
D票	住 所 票 (前期) (後期)	黒色ボールペンで、すべての項目を、もれなく記入してください。 住所欄には、願書と同じ住所を記入してください。
E票	入学検定料 振込依頼書 (前期) (後期)	入学検定料17,000円は、本冊子添付の振込依頼書E票を使用し、必ず金融機関（ゆうちょ銀行は除く。）の窓口で振り込んでください。 （E票の注意事項をよく読み、ATMやインターネットバンキングから振り込まないでください。）
F票	入学検定料 納付証明書 (前期) (後期)	入学検定料振り込み後、入学検定料納付証明書をF票の貼付欄に貼付してください。なお、受領印のないものは受け付けできませんので注意してください。
調 査 書 (*)		① 出身学校長が文部科学省所定の様式により作成し、厳封したものを提出してください。 ② 高等専門学校第3学年修了者および文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者の調査書については、文部科学省所定の様式に準じて作成したものを提出してください。 ③ 高等学校卒業程度認定試験（大学入学資格検定を含む。）合格者は、調査書に代えて「合格証明書」及び「合格成績証明書」を提出してください。成績証明書中、免除科目のある者は、当該科目を履修した学校長が作成した成績証明書も併せて提出してください。 ④ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者、国際バカロレア資格取得者、フランス共和国のバカロレア資格取得者、アビトゥーア資格取得者、文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了した者については、当該試験等の成績証明書を提出してください。 ⑤ 廃校・被災その他事情により調査書が得られない場合には、卒業証明書や成績通信簿の提出により代えることができます。被災等により、調査書・卒業証明書・成績通信簿等が提出できない場合には大学までご連絡ください。
前橋市の 住民票の写し		前橋市内居住者に該当する者は、提出してください。 （22ページの「2. 入学に係る経費」の注1を参照）

出願に必要な書類	作 成 要 領
出願資格認定書	出願資格審査において、出願資格認定書が交付された者は写しを添付してください。
受験票返信用封筒	受験票返信先を明記し、362円分（速達料金）の切手を貼ってください。 〔※ 返信先の記載及び返信用切手の貼付がない場合、受験票を返信できません。〕
出願書類提出用封筒	「志望学科」、「志望試験会場」（前期日程のみ）、「差出人」の各欄に必要な事項を記入し、書留（簡易書留も可）速達扱いで郵送してください。

＊ 調査書に記載されている氏名と現在の氏名が異なる場合は、戸籍抄本を添付してください。

7. 障がいの有する等の入学志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、障がいの有する等、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性がある場合は、下記により出願前に必ず連絡し、相談してください。また、相談期限後に不慮の事故等により身体等に障がい有することとなった場合は、速やかに相談してください。

（１）相談時期 平成28年12月15日（木）まで

（２）相談方法 事前に連絡先まで電話連絡し、本学で定める相談申請書（住所・氏名・性別・連絡先・志望学科・障がいの症状及び状況・受験上、修学上特別な配慮を希望する事項・出身学校等で取られていた特別措置を明記してください）及び診断書等必要書類を添付し、提出してください。必要な場合には、本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者等との面談を行います。

（３）連絡先 P. 15 「3. 出願先」と同じ

8. 試験会場（24～27ページの「各試験会場の案内図」参照）

（１）前期日程

① 前橋試験会場：前橋工科大学（試験室等は当日に1号館正面掲示板に掲示します。）

〔群馬県前橋市上佐鳥町460番地1、TEL 027-265-0111〕

② 東京試験会場：河合塾麹町校 〔東京都千代田区六番町1-3〕

③ 名古屋試験会場：代々木ゼミナール名古屋校 〔愛知県名古屋市中村区則武1-5-7〕

④ 仙台試験会場：TKPガーデンシティ仙台 〔宮城県仙台市青葉区中央1-3-1〕

※ 試験会場 ②～④ の緊急時連絡先は、前橋工科大学となります。

※ 試験会場注意事項

各②～④の志願者数が受入定員を超えた場合は、前橋試験会場で実施する場合があります。

（２）後期日程

前橋試験会場：前橋工科大学

9. 受験上の注意事項

- (1) 試験当日は、大学入試センター試験受験票と本学の受験票の両方を必ず持参してください。
- (2) 受験生は、両日程とも9時30分までに指定された試験室に入室し、着席してください。
- (3) 試験開始後、30分以内の遅刻に限り受験を認めますが、試験時間の延長は行いません。
- (4) 試験時間中は、監督者の指示に従ってください。不正行為を行った者は失格とします。
- (5) 試験時間中に日常的な生活騒音等が発生した場合でも救済措置は行いません。
- (6) 試験当日に該当する試験を全科目受験しなかった者は、入学者選抜の対象から除きます。
- (7) 試験当日は、筆記用具を必ず持参してください。
- (8) 受験票は、試験時に試験監督の指示に従って明示できるよう机の上に置いてください。
- (9) 試験当日に受験票を忘れた者は、速やかに試験本部で仮受験票の交付を受けてください。
また、受験票は入学手続きの際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- (10) 試験時間中に使用を許可するものは、鉛筆(シャープペンシルも可)、消しゴム、鉛筆削り、時計(計時機能のみのもの)に限ります。試験室のある建物内では携帯電話やスマートフォン、電子機器等の電源を切ってください。
- (11) 試験室における受験生間の物品の貸借は一切認めません。
- (12) 駐車場がありませんので、公共交通機関等をご利用ください。なお、前橋試験会場については、試験当日JR前橋駅南口より臨時バスを運行予定です。公共交通をご利用の方は、帰りの交通機関の運行時間等にご注意ください。
- (13) 本学では宿泊施設の斡旋はしておりません。
- (14) 試験会場及びその周辺で合格電報、レタックス等の受け付けを行う者がいても、前橋工科大学とは一切関係がなく、トラブル等が生じても責任を負えませんので注意してください。
- (15) 前橋試験会場は、試験日前日の午前に関限り下見はできますが、建物内(試験室等)への立ち入りはできません。
- (16) 総合デザイン工学科の前期日程の個別学力検査では、Bの鉛筆・鉛筆削り・消しゴム(練り消しゴムも可)を使用しますので、必ず持参してください。持参しなかったとしても、お貸しすることはできませんので、ご了承ください。なお、定規や定規に代わるものは使用できません。
- (17) 一般選抜【後期日程】において、面接試験がある学科については、受験者数により面接試験の待機時間が長くなる場合がありますので、ご承知おきください。また、面接開始時間が午後になる場合もありますので、昼食の用意をお願いいたします。なお、昼食の販売は行いませんので、各自で準備してください。
- (18) 一般選抜【後期日程】において、面接試験がある学科については、面接試験前に、個々に面接試験に使用する面接カードを記入していただく場合があります。なお、面接室には、受験票以外のもの(作品等)は持ち込みできません。
- (19) 不測の事態等が生じ試験実施が困難であると判断した場合は、中止又は試験形態を変更する事があります。
- (20) 試験の実施に関して変更等がある場合は、本学ホームページに掲載しますので、試験前に確認してください。
- (21) その他必要が生じた場合は、後日通知します。

Ⅲ 合格発表

1. 発表期日

- ① 前期日程：平成29年 3月 6日（月）10時00分以降
- ② 後期日程：平成29年 3月20日（月）10時00分以降

2. 発表方法

本学1号館正面掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに合格者には、「合格通知書」及び「入学関係書類」等を郵送（速達）します。また、合格者の受験番号は本学ホームページ（<http://www.maebashi-it.ac.jp>）でも掲載しますが、合格通知書の送付をもって正式通知とします。不合格者には通知を行いません。電話等による可否に関する問い合わせには一切応じません。

3. 追加合格等

入学手続期間終了後、入学定員に欠員が生じた場合は、追加合格者を決定します。追加合格者には、平成29年3月28日（火）から願書に記載された「連絡先」又は「緊急時連絡先」に電話により本人あてに連絡しますので、所在を明らかにしておいてください。連絡が取れない場合は、追加合格者の資格を失うことがあります。既に他の国公立大学の入学手続が完了した者は、これを取り消して本学に入学手続を行うことはできません。

なお、追加合格により欠員を補充しても、入学手続完了者が募集人員に満たない場合、欠員補充第2次募集を行います。4月1日以降に欠員補充第2次募集を行う場合は、本学のホームページ（<http://www.maebashi-it.ac.jp>）に掲載します。

4. 情報開示

本学では、一般選抜【前期日程・後期日程】を受験し、不合格となった希望者に対し、「入試情報開示請求書」に基づき、次の情報を提供します。

（1）請求できる者

受験者本人に限ります。（代理人請求は認めません。）

（2）開示内容

- ① 一般選抜前期日程試験の個別学力検査等の科目別得点
- ② 一般選抜後期日程試験の学力検査等の総合得点
- ③ 大学入試センター試験の科目別得点のうち、合否判定に利用した科目を本学の配点に換算した得点

（3）請求方法

下記書類を同封の上、請求先に郵送してください。

- ① 返信用切手（82円分）貼付の送付先が明記された長形3号の返信用封筒
- ② 「本学受験票」及び「大学入試センター試験受験票」の原本
（両受験票とも結果通知書に同封し、返却します。）

③ 入試情報開示請求書

本学ホームページ (<http://www.maebashi-it.ac.jp>) からダウンロードしてください。本学窓口及び郵送でも入手できます。郵送での入手を希望する場合は、
P. 15 「3. 出願先」までお問い合わせ下さい。

(4) 請求先

〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町460番地1
前橋工科大学 学務課学生係

(5) 開示請求受付期間

平成29年4月17日(月)から4月28日(金)まで

(6) 通知

平成29年5月31日(水)をめどに発送します。

IV 入学手続

1. 入学手続

(1) 入学手続期間

- ① 前期日程：平成29年3月15日(水)まで
- ② 後期日程：平成29年3月27日(月)まで

(2) 入学手続方法

- ① 手続の際、本学の受験票と大学入試センター試験の受験票が必要です。(手続完了後、返却します。)
- ② 手続書類の提出は、「郵送」又は「持参」により行ってください。
「郵送」の場合は、必ず書留(簡易書留も可)速達とし、入学手続期間最終日の17時00分必着とします。「持参」の場合の受付時間は、平日の9時00分から17時00分までとします。

(3) 入学手続先

〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町460番地1
前橋工科大学 学務課学生係 [1号館1階事務局]
TEL 027-265-7361

(4) 入学手続上の注意事項

- ① 期間内に手続を完了しなかった者は、入学を辞退したものとして取り扱います。
- ② 必要な書類がすべてそろっていない場合は受け付けませんので、書類提出の際には十分確認をしてください。また、入学手続期間を過ぎて到着したものは受け付けませんので、郵送の場合には所要日数を十分に考慮して発送してください。
- ③ 「卒業(修了)見込み」で出願した者が、平成29年3月31日までに卒業(修了)できなかった場合は、入学許可を取り消します。
- ④ 入学手続完了後、やむを得ない理由で入学を辞退する場合は、至急本学に連絡し、平成29年3月31日【必着】までに所定の入学辞退届を提出してください。
- ⑤ 一度受け付けをした入学手続書類及び納入された入学料は、どのような理由があっても返還しません。

2. 入学に係る経費

[社会環境工学科 ・ 建築学科 ・ 生命情報学科 ・ システム生体工学科 ・ 生物工学科]

		金 額	納入時期
入 学 料		282,000円	入学手続時
		141,000円 [前橋市内居住者] (注1、2)	
諸 経 費	後 援 会 費	50,000円	入学前
	同 窓 会 費	20,000円	
	災害傷害保険料	4,660円	
	学生自治会費	21,000円	
授 業 料	前期	267,900円	4月
	後期	267,900円	10月

[総合デザイン工学科]

		金 額	納入時期
入 学 料		282,000円	入学手続時
		141,000円 [前橋市内居住者] (注1、2)	
諸 経 費	後 援 会 費	50,000円	入学前
	同 窓 会 費	20,000円	
	災害傷害保険料	2,760円	
	学生自治会費	21,000円	
授 業 料	前期	200,900円	4月
	後期	200,900円	10月

(注1) 「前橋市内居住者」とは、入学する者または配偶者もしくは1親等の親族が平成29年4月1日において引き続き1年以上前橋市に住所を有している者としてします。

(平成28年4月1日から平成29年4月1日までの間、前橋市に住民登録がある者)

(注2) 「前橋市内居住者」として入学料を納入し、入学した者は、平成29年4月1日以降に取得した前橋市の住民票の写し(平成29年4月1日以降に転出した者は住民票の除票)を提出していただきます。なお、前橋市内居住者の条件を満たしていないことが判明した場合は、差額を納入していただくことになりますので、ご注意ください。

※ 上記の額は、平成28年4月1日現在のものです。改定した場合は、改定後の額が適用されます。

V 個人情報の取り扱い

前橋工科大学では、提出された書類及び入学試験の実施により志願者の個人情報を取得しますが、これらの個人情報については、関係法令を順守し、次の目的以外には利用しませんので予めご了承ください。

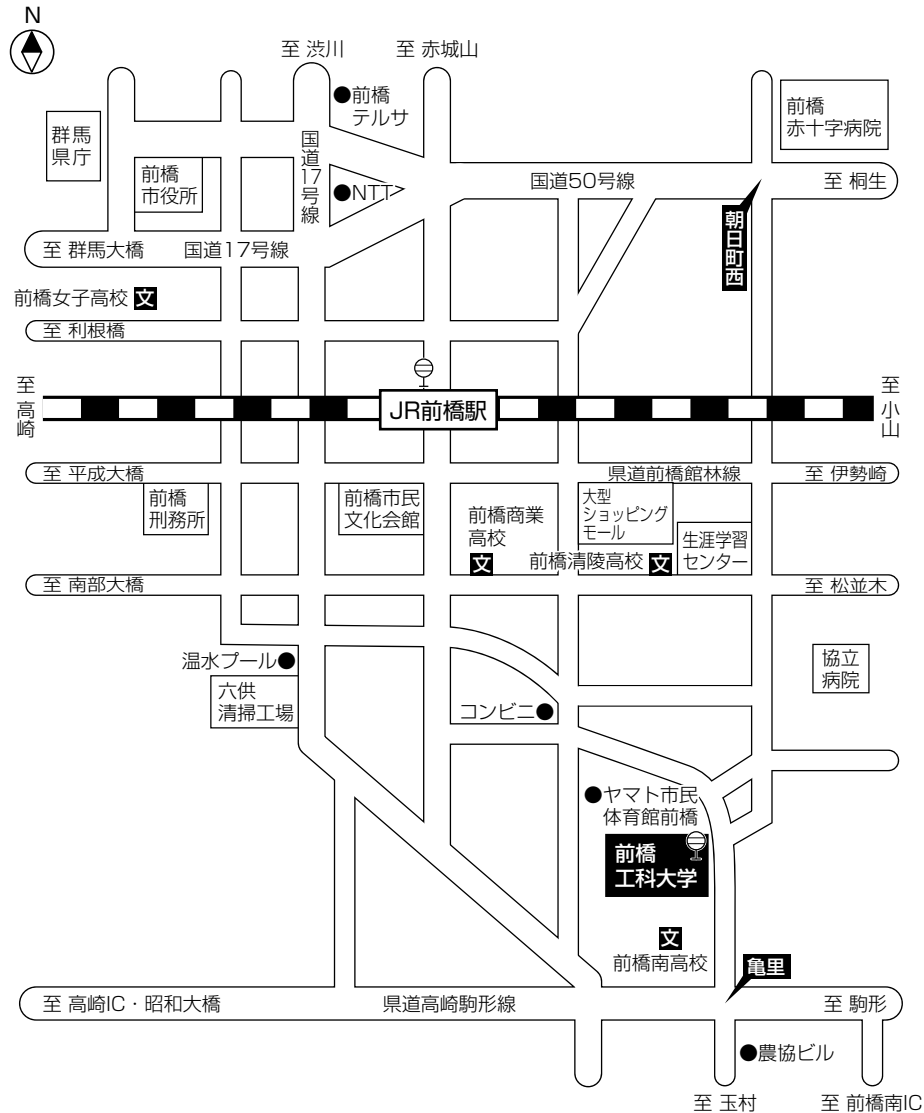
- (1) 入学者の選抜及び入学手続業務を行うために利用します。
- (2) 統計資料の作成や今後の入学者選抜方法の検討資料を作成するために利用します。
- (3) 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、指名、本学個別学力検査の受験番号、大学入試センター試験の受験番号、合否及び入学手続等に関する個人情報が独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。
- (4) 入学者の個人情報は、教務関係、学生支援関係及び授業料徴収業務関係の業務を行うために利用します。また、本学関連団体である前橋工科大学後援会、前橋工科大学同窓会及び前橋工科大学学生自治会において、各団体の運営に必要な範囲内で利用します。

各試験会場の案内図

1 前橋試験会場

前橋工科大学【前期日程、後期日程】

群馬県前橋市上佐鳥町 460 番地 1



(交通)

JR前橋駅

から

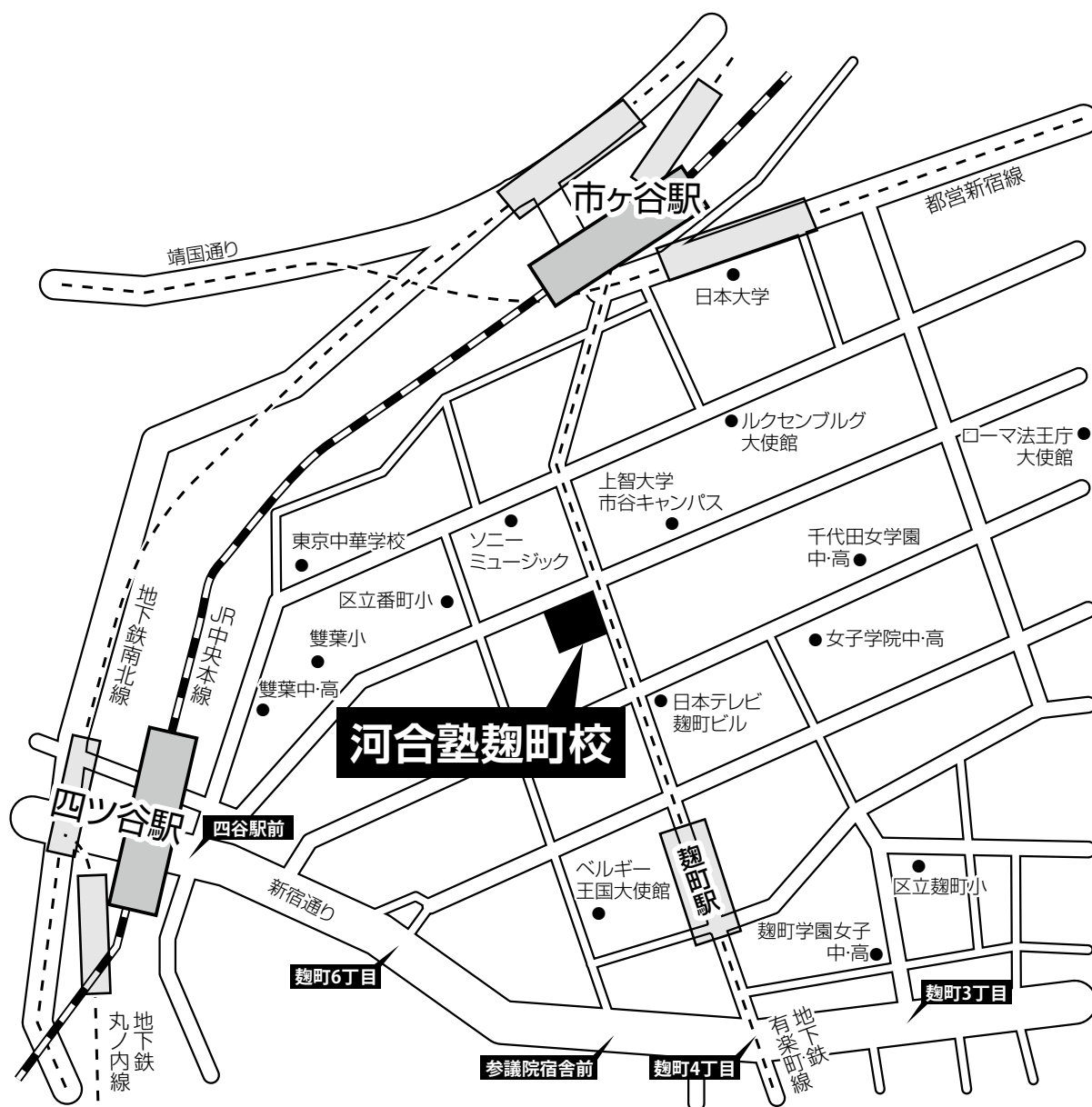
- ・バス(前橋工科大前下車)、タクシーで約10分。
- ・徒歩で約30分。

※緊急時等の連絡先は、前橋工科大学へ (☎027-265-0111)

2 東京試験会場

河合塾 麹町校【前期日程のみ】

東京都千代田区六番町 1-3



(交通) JR 総武線「市ヶ谷駅」徒歩 3 分

東京メトロ有楽町線／南北線／都営新宿線「市ヶ谷駅」3 番出口 徒歩 3 分

JR 中央線／総武線「四ツ谷駅」麹町口 徒歩 5 分

東京メトロ丸ノ内線／南北線「四ツ谷駅」1 番出口 徒歩 6 分

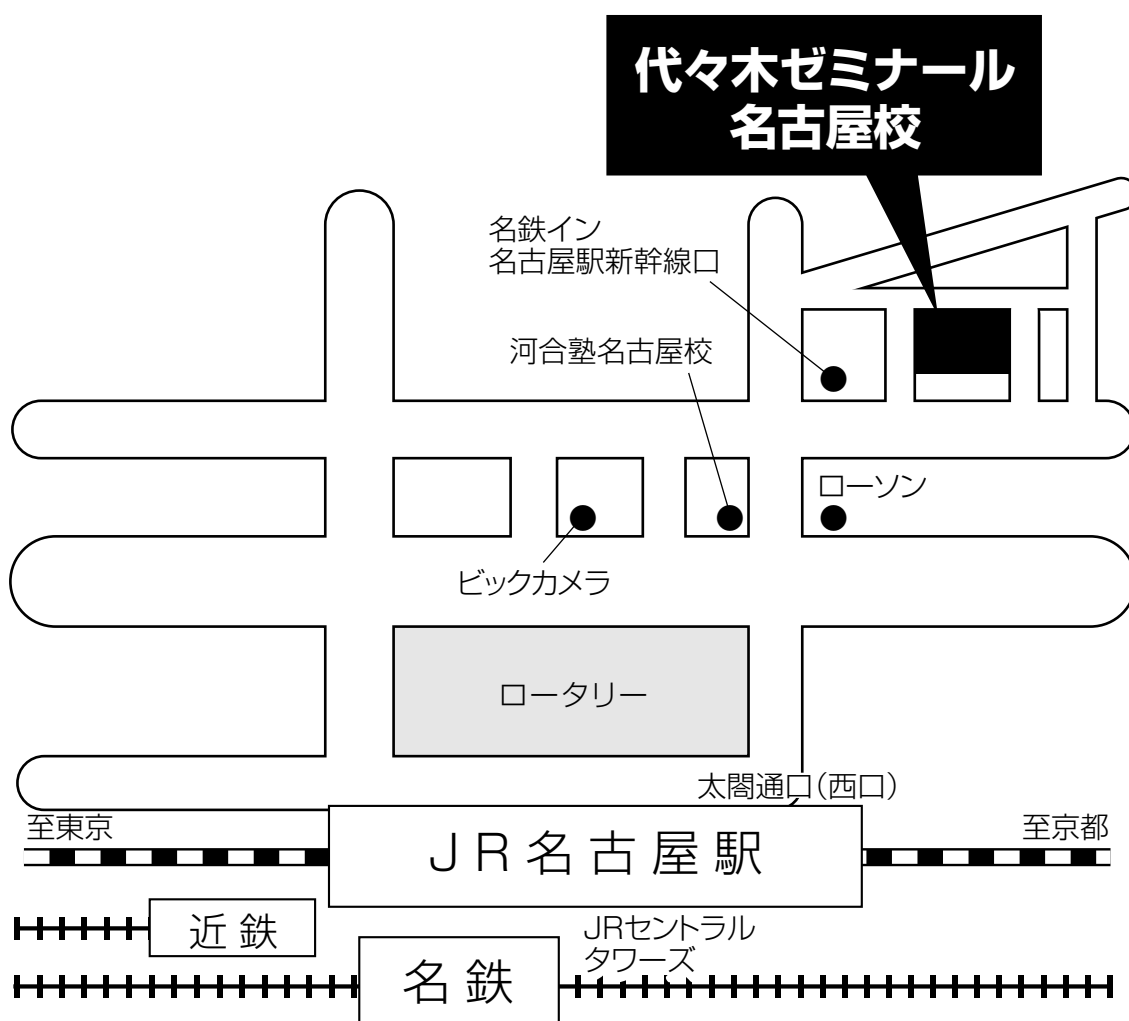
東京メトロ有楽町線「麹町駅」6 番出口 徒歩 2 分

※緊急時等の連絡先は、前橋工科大学へ (☎027-265-0111)

3 名古屋試験会場

代々木ゼミナール名古屋校 【前期日程のみ】

愛知県名古屋市中村区則武 1-5-7



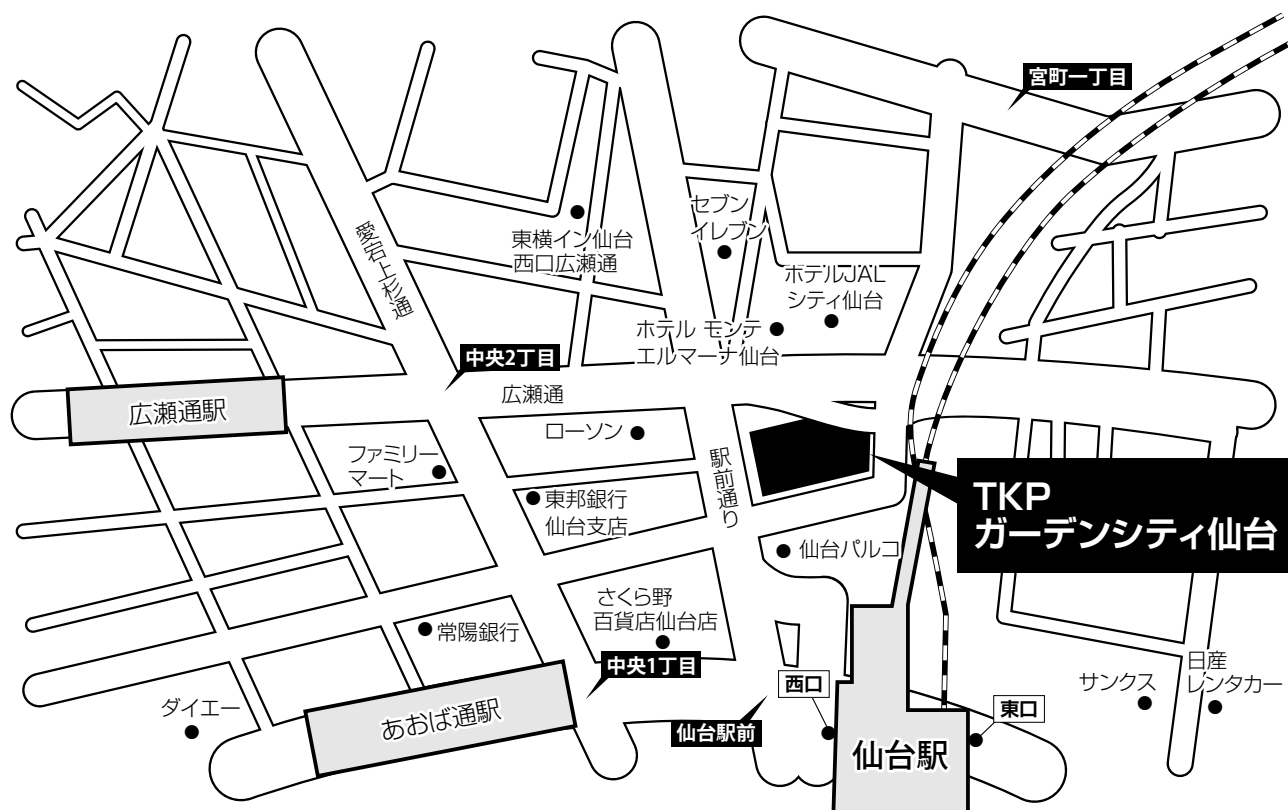
(交通) JR 名古屋駅 太閤通口 (西口) 徒歩 3 分

※緊急時等の連絡先は、前橋工科大学へ（☎027-265-0111）

4 仙台試験会場

T K P ガーデンシティ仙台【前期日程のみ】

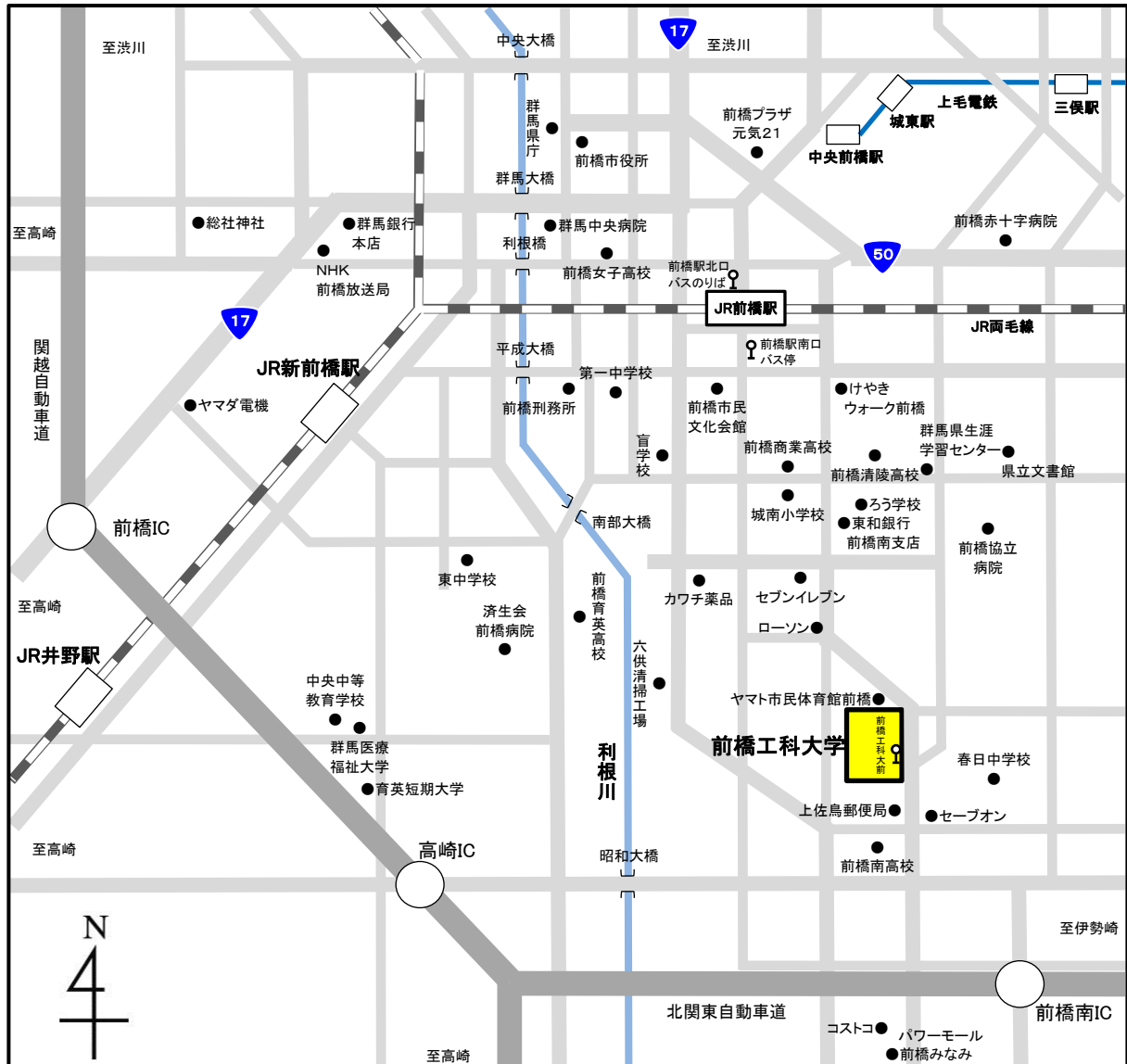
宮城県仙台市青葉中央 1-3-1 AER30F



(交通) JR 仙台駅 西口 徒歩 2 分
市営地下鉄南北線「広瀬通駅」 徒歩 5 分
JR 仙石線「あおば通」 徒歩 5 分

※緊急時等の連絡先は、前橋工科大学へ（☎027-265-0111）

前橋工科大学案内図



交通機関のご案内

バス JR前橋駅北口4番のりばから約10分「前橋工科大前」下車
〔永井バス：新町玉村線、天川原町経由下川団地線〕片道200円

タクシー 約10分

徒歩 約30分

試験に関するお問い合わせ

〒371-0816
群馬県前橋市上佐鳥町460番地1
前橋工科大学 学務課学生係（入試担当）
〔1号館1階事務局内〕
TEL 027-265-0111（代表）
027-265-7361（学務課直通）
FAX 027-265-3837
E-Mail nyushi@maebashi-it.ac.jp

URL <http://www.maebashi-it.ac.jp>

